

長野県 公運協だより

第164号

発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1-1-4
県立長野図書館内
電話 (026) 217-6256
FAX (026) 217-7015

長野県公民館報関係者研修会

立科町中央公民館 館長 市川正彦



六月二十一日(土)、軽井沢町中央公民館に於いて「令和七年度長野県公民館報関係者研修会」が開催されました。県内各地より公民館職員、館報編集委員九十四名が参加し、館報づくりの手法や課題についてそれぞれの館の状況を出し合い、研鑽に努めました。

午前は、(株)小諸新聞社・佐久市民新聞記者の遠藤武司氏をお招きし「公民館報の役割と公民館報編集委員を経験して」と題して講演をいただき、また、遠藤氏が小諸市公民館報編集委員当時から一緒に館報づくりに携わり、その後、令和二・四年度の全国公民館報コンクールで金賞を受賞された小諸市公民館の土屋明美前館長にも、受賞当時の館報づくりの実践につ

いてお話をいただきました。遠藤氏からは、インターネットの発達で世界や日本全国の情報などはすぐに分かるのに、近隣の情報ほど得にくくなっている。公民



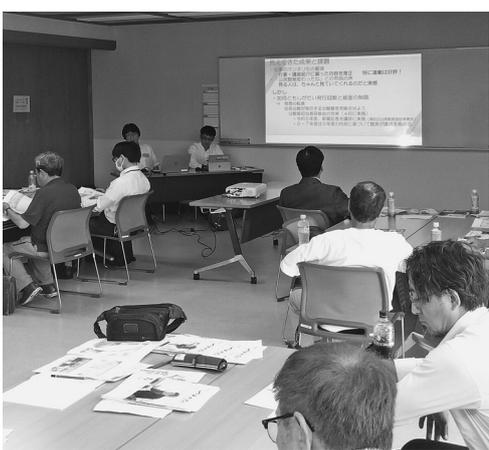
館報は身近な地域の情報を住民に伝える大切な役割を担っているという話から、読まれる文章の基本、取材時の心掛け、公民館報編集委員の活動を通じて得たこと、などについてお話をいただきました。

午後の分散会ではテーマを統一し、「館報・広報誌づくりの実践研修」と題して四グループに分かれ、各司会より取組状況の口火を切っていただいた後、小班に分かれて自館の館報作成の手順や題材、工夫点や悩みなどを出し合い、意見交換を行いました。

館報発行回数は年二回、毎月、単独発行または市町村広報誌に含めて発行、編集委員と職員による館報作成または職員が一人で作成

しているなど、各館の状況は様々ですが、紙面のマンネリ化・題材不足・情報収集の方法など、共通の悩みも見受けられました。工夫点では、紙面の魅力アップを図るためQRコードを付して写真や動画を見られるようにする、などの取組も出されていきました。

最後に、本研修会の開催にあたり、ご協力、ご尽力いただきました関係各位の皆様へ感謝申し上げます。



第一回公民館職員

オンライン講座

松本市鎌田地区公民館

館長 小嶋和好



オンライン講座は、参加者が一堂に会することなくそれぞれの場所

所で受講できる便利な講座です。

とは言うものの、私は機器に弱く、自分でオンライン通信ができる環境を設定できないのです。新しいことに挑戦する意欲より、機器に対する苦手意識の方が勝っているようです。

そんなことから、昨年度は受講しなかったのですが「支援講座」から「オンライン講座」に名称が変わった今年、受講しました。

七月三日（木）オンライン講座当日、機器の設定は、頼りになる同僚が快くやってくれました。防災ではないけれど、「自助」では不可能なことも「共助」「近助」とつながりがあると、解決できるというよい実例でしょうか？

オンライン講座の内容は「公民

館の基礎知識（公民館で大切にしていることは何ですか）で、経験談を話してくださったのは四人です。塩尻市中央公民館の青柳館長が、「サマースクール公民館

での中学生の活躍」を、松本市田川公民館の萩原館長が、「お願いされる立場からお願する立場に変わり挨拶を大事にしている」ことを、売木村公民館の篠田主事が、「人生で初めて経験する自分が計画するということを楽しんでやりたい」と、信濃町公民館の沓掛主事が、「一昨年からQRコードの活用を始めたこと」等々をお話されました。

それを、進行役の木下事務局長が、柔らかな口調で話を聞き出し深め、さらに一般参加者の声も拾い上げて共有していききました。みんな同じようなことを考えているなあと感じたり、そんなやり方考え方もあるのかと新たな視点をいただいたりもしました。

「知りたい情報」への回答前に筒井アドバイザーから、公民館の歴史と役割などをお聞きしました。

県下の公民館を身近に感じることができ、次回以降も参加したくなるオンライン講座でした。

ブロックニュース

南信

eスポーツを活用した

地域活動の広がり

～三穂eスポーツ事業～

飯田市三穂公民館

主事 北村翔太郎

三穂公民館では今年八月、地域の二十代の若者が主体となり公民館委員の皆さんと一緒に、地元の夏祭りの一部として「eスポーツ大会」を開催いたしました。

三穂では地区の運動会や夏祭りといった地域行事で、高校生や大生の顔を見る機会が減っており、若者と地域のつながりの希薄化を課題に感じ、「どうしたら若者が活動に参加してくれるのか」「若者がこれからも三穂で暮らし続けてもらえるようにするにはどうしたらよいか」などを、公民館委員の皆さんと話し合ってきました。地域から離れがちになる高校生の地域への思いや考えを知り、公民館としてできることを探るため、年に一度「高二の集い」として「三穂の好きどころ」や、「こんなイベントがあったら参加したい」

をテーマに地域の高校生と公民館役員の意見交換を行っています。この懇談の中で、高校生から「三穂でeスポーツをやってみよう」という声があがり、令和五年度より公民館事業として取組が始まりました。

今年の夏祭りでは、三穂在住の若者から、「僕らの年代でも三穂のイベントに協力したい」との声が上がりました。その思いを実現する形で、夏祭りeスポーツ大会を若者主催で実施することになりました。当日は、司会進行やルール説明、対戦中の実況を若者自ら担い、会場を盛り上げてくれました。企画当初は不安な様子も見られましたが、「三穂の夏祭りを自分たちも盛り上げたい」「eスポーツなら得意分野だから任せてほしい」と前向きな声が多く聞かれ、徐々に自信をもって取り組んでくれました。夏祭り終了後には、「最初はとも恥ずかしかったけど、子どもたちの笑顔が見られて嬉しかったです。また来年も手伝いたい」「大人と子どもと一緒に楽しめるeスポーツって、やっぱりすごいですね」といった感想が寄せられました。また、公民館の役員の方は、

「三穂の若者が地域のイベントを盛り上げようと関わってくれるのは本当に嬉しい。このつながりを大切にしていきたい」と若者に語り掛けていました。

地域に住んでいる若者の声から新たな取組を行うことで、地域活動の幅が広がるだけでなく、若者

自身の主体性が育まれていると感じています。こうした体験を積み重ねることで、若者と地域との継続的な関わりを生み出し、将来的にも三穂に戻ってきたい、関わり続けたいという思いを育てることもつながるのではないかと考えています。

レコーラム

「長野県らしい公民館とは？」^⑨

シニア学級がめざすもの

高山村公民館

館長 黒岩龍也

高山村は、令和五年に「消滅可能性自治体」に該当すると発表されました。少子高齢化が進行し、若年層が減少している現状において、高齢者の地域社会への参画が今まで以上に必要になってきています。そこでシニア学級では地域の課題解決に向けた講座を実施しています。

令和二年十月十三日に千曲川流域に多くの被害をもたらした台風十九号は、本村にも影響をもたらしました。当時、村内でも避難指

示が出されましたが、経験したことのない指示に困惑した村民も多かったです。

講座は、村の防災担当職員を講師に、当時の様子を生々しく話していただきました。参加者の中には、実際に避難された方もいて、当時の様子を聞いたり、防災マップを見たりしながら、避難経路を確認しました。また、避難場所で使用するテントや簡易ベッドを自分たちで実際に組み立てたり、備蓄用食料品を食べたりしました。改めて災害時における「自助・共助・公助」について学ぶ機会となりました。

最近、高齢者をターゲットにした「電話でお金詐欺」が後を絶ちません。もし、不審な電話が来たらどうしたらいいのか？最近の手口は実に巧妙です。地元警察署員



「ここに生きる

ミュージックベル講座

佐久穂町公民館

主事 岡部豊一

ミュージックベルをご存じですか？ハンドベルとは異なり使い方も価格もお手頃な楽器で、日本で開発されたようです。参加者の人数が多ければ多いほど演奏に厚みが出ることで、間違えても和音として溶け込んでしまうことなどが特長です。

佐久穂町公民館では、こどもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず楽しめる講座のひとつとして令和六年度から開講しています。参加者の最年少は二歳で、お昼寝とベルのどちらがいい？というお母さんの問いに対して、ベルを選択してくれたようです。最年長はたぶん八十代後半？と思われま

す。楽譜の代わりに色音符を活用した「楽しむコース」とベルの素朴な音を尊重した「奏でるコース」を設け、それぞれの特長を楽しん

と実際に電話でやり取りしながら巧妙な手口を経験しました。詐欺にあわないために電話の扱い方について具体的に学ぶことができま

した。「最近電話に出るのが怖い」「お友達のとこに電話がかかりづらくなった」といった暮らしの中の変化を共有することができま

した。

実際に体験することや経験談を共有することで、自分ごととしてとらえ行動へとつながることができるとおもいます。人生百年時代を迎え、まだまだ老いるには早い。今後ますます高齢化が進む中、高齢者の社会参加を支える講座をこれからも考えていきたいです。

でいます。できるだけ幅広い年齢層が参加することで、お互いに作用しあいwin-winの関係ができてきたら幸いです。

八月三日に開催された「茂来館夏まつり」では、来場者との演奏を楽しむとともに、講座のチラシも配布しました。こどもたちがこの講座へ参加してくれたら最高です。



新池田学問所 みのり塾

池田町公民館

主事 小林 優成

池田町では新池田学問所（公民館講座）の一環として総合学習講座「みのり塾」を開催しています。

「みのり塾」とは防災や演奏、短歌、体操等のさまざまな講座を通じて人生を豊かにすることを目的とし、年に七〜八回の講座を実施しています。令和七年度では、五月に脳トレ&体操、六月に防災講座、七月に七夕人形の三つの講座を開催してきました。

第一回の脳トレ&体操講座では、昭和のなつかしの歌謡曲にあわせて体を動かしたり、脳トレや簡単なゲームを行いました。歌って踊ることで脳と体をほぐすことができました。

第二回の防災講座では被災をした際に救助が来るまでの三日間を生き延びるために私たちは何をしなければいけないのかを学び、また、実際に防災グッズに触れたり、防災食の試食を行いました。

第三回の七夕人形講座では、二枚の和紙を巧みに使い組合せ、江



戸時代から続く松本地方の文化である七夕人形を作成することができました。

参加者から「昔を思い出しながら楽しむことができた」や「防災食が想像より美味しかった」、「昔ながらの文化に触れることができ良かった」等の嬉しい感想をいただき、今後も地域のみなさんの人生を豊かにしていきたい企画・運営をしていきたいと感じました。

県教委より

長野県及び長野県教育委員会からのお知らせ

十一月二十日（木）・二十一日（金）の二日間、横浜市にて「第五十六回関東甲信越静社会教育研究大会・神奈川大会」が開催されます。

初日は講演とシンポジウム、二日目には五つの分科会が予定されています。

本年度は、下諏訪町の社会教育委員の皆様が、「地域の教育力の再生と社会教育委員の役割」をテーマとする分科会において、「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡を題材とした学び〜紙芝居を作った私たちの物語〜」と題し、事例発表を行います。

この発表では、紙芝居の制作を通じて地域の歴史と文化を子どもたちに伝える取組について紹介し、その過程で得られた成果や課題について報告されます。

（生涯学習課

主任指導主事 篠原靖昌）

